

あとがき

この度は京都大学藤子不二雄同好会の学祭展示にご来場くださり、そして文集を手にとっていただきありがとうございます。同好会メンバーの藤子作品にかける情熱が少しでも伝われば嬉しいです。

11月祭への参加は、2009年に同好会を設立した当初からの目標でもありました。はじめは人数も少なく、学祭への参加はおろか通常の活動さえも少数で細々とおこなっているくらいだったのですが、昨年からは活動が活発になり、今年には学祭への進出も果たすことができました。第一回目の参加ということで、何をする？というところから始まった今回。準備方法などの苦労はあったものの、長谷会長を中心にみんなで一から作り上げる楽しさは味わえたのではないかと思います。

普段の活動でマニアックな藤子談義が飛び交うことが多い我がF同ですが、全員の意見や考えを深いところまで聞くことはなかなかできません。しかし今回の文集では普段は隠れている各人のアツい藤子な文章を読むことができます。これは文集ならではの効果でした。各人の記す文章は興味深いものばかりで、最初に読んだ際は興奮のあまり叫びたくなるほどでした（笑）。

文集を読んで、一番うれしかったのは僕自身かもしれません。身近にいる同世代がこんなにコア（笑）な内容の文章を書いているのだ！と。そしてその人達といつでも深く会話ができる環境にあるのだと。これこそ、僕が大学入学のときに期待し、夢見ていた状況なのです。本当に、サークルをつくってよかった、そしてみんなが集ってくれてよかった。創立者として、一番最初からずっとサークルの成長を見てきた身として、そう思わずにはいられないのです。これからはこのサークルが、京都大学の内外を問わず、この地域にいる藤子仲間が集まる小さな拠点のような存在になればいいなと思っています。これからのF同がどのような歴史を作っていくか、楽しみです。

最後に、今回の11月祭に向けての準備や手続きの取りまとめを精一杯やってくれた二代目会長の長谷くんにありがとうとお礼を言って、あとがきを締めくくりにします。

今後とも京都大学藤子不二雄同好会を応援よろしく申し上げます。

初代会長 中野 周平